国道23号中勢バイパスの最終工区として、国が工事を進める鈴鹿市の安塚工区で、地元の玉垣小学校の４年生120人余りを招いた見学会があった。児童らは現場の機材や重機に触れながら、工事の規模や目的への理解を深めた。（片山健生）

現場の機材に触れ 理解深める

中勢バイパス 鈴鹿・玉垣小児童が工区見学

ドローン操作や高所作業車搭乗体験

㊤測量器をのぞいて、間違い探しに挑戦する児童ら
㊦高所作業車から工事現場や街並みを眺める児童ら

手伝ってもらいながらドローン操作を体験する児童＝いずれも鈴鹿市北玉垣町で

中勢バイパスの事業区間は同市北玉垣町―松阪市小津町の三三・八㌔で、安塚工区は、事業全体の起点となる北玉垣町交差点から野町西交差点までの二・八㌔。工事は二〇二三年度中の開通を目指して進み、完成すると中勢バイパスが全通する。見学会は三重河川国道事務所が二十四日、地元の道路に親しんでもらおうと開いた。

主な会場は北玉垣高架橋で、中勢バイパスの橋りょうでは最長の四百十五㍍を誇る。ヘルメットをかぶった児童らは舗装前のランプを歩いて進み、高さ十二㍍の橋の上に到着。工事の進行管理に役立つドローンの操作を体験したり、測量器をのぞいて八㌔先に設置されたイラスト二枚の間違い探しに挑戦したりした。

橋りょう側面の施工確認などで活躍する高所作業車の搭乗体験では、バスケットに乗り込んだ児童らが、橋の上からさらに十㍍ほど高い絶景スポットへ。快晴に恵まれたこの日は、遠くの景色も鮮明とあって歓声を上げながら、橋の全体像や自分たちが暮らす街との位置関係などを確認した。

高所作業車からの眺めに大喜びの様子だった松山千夏さん（一〇）は「学校も見えて楽しかった。（安塚工区の）工事が終わったら、車で通ってみたいし、中勢バイパスでいろんな所へ行ってみたい」と話していた。

鈴鹿・亀山版

やっぱりおいしい ミエライス

ふだかのうた

〈絵本を読みながらお昼寝〉
孫　ジイジがライオンさんになった！
（いびきにビックリしています）
孫　ばた？
にしお
いたに・まりん（4）＝伊勢市東大淀町、祖母・戸上訓代

〈ちょ
（車で
町、祖母